



2025年4月22日

各位

会社名 株式会社アストロスケールホールディングス  
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 岡田 光信  
(コード: 186A 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役兼 CFO 松山 宜弘  
(TEL. 03-3626-0085)

## 2025年4月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025年4月21日夜遅くに開催した取締役会において、直近の業績の動向等を踏まえ、2024年12月13日の2025年4月期第2四半期(中間期)決算発表時に開示した2025年4月期の通期連結業績予想を以下の通り修正することとしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 2025年4月期 通期連結業績予想数値の修正 (2024年5月1日~2025年4月30日)

	プロジェクト 収益(※)	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者 に帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,000	8,000	△17,000	△18,500	△18,500	△18,500	△162.31
今回修正予想(B)	5,500	2,300	△19,500	△22,500	△22,500	△22,500	△197.22
増減額(B-A)	△6,500	△5,700	△2,500	△4,000	△4,000	△4,000	
増減率(%)	△54.2	△71.3	—	—	—	—	
(参考)							
前期実績(C) (2024年4月期)	4,667	2,852	△11,555	△9,219	△9,181	△9,181	△101.45
増減額(B-C)	832	△552	△7,944	△13,280	△13,318	△13,318	
増減率(%)	17.8	△19.4	—	—	—	—	

#### 2. 業績予想修正の理由

2025年4月期(当期)の通期連結業績予想におきまして、主に新規案件(LEXI-P及びK Program)の契約締結に係る従前からの遅れが継続することにより売上収益および政府補助金収入が約60億円、既存案件(ISSA-J1及びAPS-R)の収益認識の遅れにより政府補助金収入が約5億円、前回発表予想よりも減少する見込みであるため、プロジェクト収益を120億円から55億円に下方修正いたします。また、上記LEXI-Pの契約締結の遅れにより、各段階損失を下方修正いたします。売上総損失については、前回発表予想の0億円(損益分岐)から45億円に下方修正いたしますが、LEXI-Pの契約締結時期遅延に伴う先行開発費用の抑制、販売費及び一般管理費の厳格な管理の継続、一部拠出の補助金案件(APS-R)の費用・収益認識がずれたことによる当期に生じる損失の減少などにより、営業損失につきましては、上記の通り、その下方修正金額が限定的となりました。税引前利益以下の段階損失につきましては、上記に加え、主に外貨建現預金及び当社連結子会社に対する外貨建貸付金を期末時点の想定為替レートに評価替えすることにより見込まれる為替差損の発生(約23億円)を反映しております。

なお、LEX サービスの新規契約に関しまして、従来から交渉を継続してきた顧客は関係政府の政局による遅延が影響しており、契約に関する最終合意に至るまで時間を更に要する可能性がございます。他方で、他の民間顧客からの関心は見られており、今後の状況によっては LEXI 初号機 (LEXI-P) の顧客の変更を検討する可能性があります。なお、顧客変更の場合でも、プロジェクトの仕様は類似すると想定しており、異なる顧客の衛星にサービス (ドッキングと分離) を提供するために、LEXI 衛星の設計に大きな変更は不要と見込んでおります。当社グループは、引き続き契約締結に向けて顧客との交渉を積極的に行ってまいります。現時点において LEXI 初号機 (LEXI-P) に係る契約時期は未定です。

また、既存案件 (ISSA-J1 及び APS-R) の収益認識の遅れはいずれも一時的なものであり、2026 年 4 月期には概ね回復できる見通しです。

本業績予想修正に関する説明資料につきましては、別紙をご参照ください。

(※) 当社グループは、国際会計基準 (IFRS) により規定された指標ではなく、投資家が当社グループの業績を評価する上で当社が有用と考える財務指標として、プロジェクト収益 (売上収益+政府補助金収入) を開示しております。この数値は、当社グループが提供するサービスの対価として取得する政府補助金収入を売上収益に加算して算出しており、分析手段として重要な制限があることから、IFRS に準拠して表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではありません。当社グループにおけるこの数値は、同業他社の同指標あるいは類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があります、その結果、有用性が減少する可能性があります。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社グループが本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。予測に関する記述はリスクや不確実性を内包するものであるため、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上



2025年4月期  
通期業績予想修正に関する  
投資家説明資料

株式会社アストロスケールホールディングス  
(証券コード: 186A)

2025年4月22日



# ご留意事項

本プレゼンテーション資料は、株式会社アストロスケールホールディングス（以下「当社」または「アストロスケール」）により、情報提供のみを目的として作成しております。本プレゼンテーション資料には、当社の将来の見通しおよび計画に関する当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの記述は、本プレゼンテーション資料の日付または他の特定の日付時点における当社の仮定および見通しを反映しています。これらの前向きな記述が実現するという保証はありません。

実際の結果は、当社のミッションの開発や運用における変化または不利な結果、顧客の計画やニーズの変更、競争、法的および規制環境の変更その他の要因を含む様々な要因により、これらの記述に示されたものと実質的に異なる場合があります。

したがって、これらの記述に過度の信頼を置かないように注意が必要です。当社は、適用法または証券取引所の規則および規制により要求される場合を除き、本プレゼンテーション資料に含まれる情報をその後の進展に基づいて更新または修正する義務を負いません。

本書には、引用されている第三者の情報に基づくまたは派生した情報が含まれています。当社は、第三者の情報の正確性または完全性を独自に検証しておらず、また、その正確性または完全性を当社が保証するものではありません。



# 要 旨

① 2025年4月期通期予想を以下の通り下方修正。

	新予想	旧予想
プロジェクト収益	55億円	120億円
営業総損失	45億円	0億円
営業損失	195億円	170億円
当期損失	225億円	185億円

- プロジェクト収益、営業損益の下方修正の主な要因は、新規契約締結の遅れ、既存案件の収益認識の遅れ。
- 当期損失には、上記に加え、想定される為替差損の影響を含む。

② 新規案件（LEXI-P）の契約締結に遅れが生じたものの、LEXサービス事業見通しに重要な変更無し。民間顧客向けの具体的な需要が顕在化。

③ 既存案件の収益認識の遅れは一時的。2026年4月期には概ね回復できる見通し。



# 2025年4月期通期業績予想

2025年4月期通期予想を以下の通り下方修正。下方修正の主な要因は、新規契約締結の遅れ、既存案件の収益認識の遅れ。

## 2025年4月期通期業績予想

(百万円)	2025年4月期 新予想	2025年4月期 旧予想	2024年4月期 実績	前年比
プロジェクト収益	5,500	12,000	4,667	+17.8%
売上収益 (IFRS)	2,300	8,000	2,852	(19.4)%
政府補助金収入	3,200	4,000	1,814	+76.4%
売上総利益	(4,500)	0	(2,245)	(2,254)
売上総利益率 (%)	(195.7)%	0.0%	(78.7)%	-
営業利益	(19,500)	(17,000)	(11,555)	(7,944)
税引前利益	(22,500)	(18,500)	(9,219)	(13,280)
当期利益	(22,500)	(18,500)	(9,181)	(13,318)

## 旧予想比の変動要因

- プロジェクト収益：**
  - 新規大口プロジェクト (LEXI-P、K Program) の契約締結の遅れ影響。
  - 既存プロジェクト (ISSA-J1、APS-R) の顧客側やサプライヤ側の要因によるコスト認識・収益認識の時期の遅れが影響。
- 売上総利益：**
  - LEXI-P の契約時期の遅れ影響。
- 営業利益：**
  - LEXI-P 契約締結時期の遅れに伴い、先行開発費を抑制。
  - 引き続き販売管理費の厳格な管理を継続。
  - 費用一部拠出の補助金案件の収益認識に遅れが生じたことに伴い、今期に生じる損失が減少。
- 当期利益：**
  - 為替差損 (約2,300百万円) を見込む。想定レートは1ドル142円。

注記：この予想は将来に関する見通しを示す記述であり、将来の出来事についての当社の当時の見解を反映したものである。そのため、将来の業績や展開を保証するものではなく、その予想はその性質上、重大なリスクや不確実性を伴う。  
 プロジェクト収益: Non-IFRS指標。プロジェクト収益には、顧客からの売上収益と、特定のプロジェクトに使用される補助金に関連する政府補助金収入が含まれる。当社は、資金調達方法に関わらず幅広いプロジェクト活動を推進しているため、プロジェクト収益は、当社のプロジェクト関連活動から得られる収入源に関する追加情報を投資家に提供するものと考えている。経営陣は、プロジェクト関連活動の収入を示す主要な管理会計上の指標として、プロジェクト収益を注視している。



# プロジェクト収益：業績予想下方修正要因と今後の見通し

今回の下方修正は新規契約締結の遅れや既存契約に係る収益認識の遅れによって発生。LEXサービス事業の今後の見通しに重要な変更はなく、既存契約の収益認識の遅れも2026年4月期には概ね回復できる見通し。

## 新規契約締結の遅れ

対象 プロジェクト	LEXI-P K Program
2025年4月期 業績への影響額	約60億円

### 今後の見通し

- **LEXI-P**
  - 強い関心を示す顧客との交渉を継続中であり、従来締結していたタームシートも期間延長済み。関係政府の政局による遅延が影響しており、最終合意に至るまで時間を更に要する可能性がある。
  - LEXサービスに対する他の民間顧客からの関心が見られており、今後の状況によっては、事業機会を最大化するために、LEXI初号機（LEXI-P）を割り当てる顧客は柔軟に検討。LEXI衛星は技術的に顧客間での切り替え（ドッキングと分離）が柔軟に可能。
- **K Program**
  - 2025年1月に受注済み。2026年4月期上期に契約締結できる見通し。

## 既存契約に係る収益認識の遅れ

対象 プロジェクト	ISSA-J1 APS-R
2025年4月期 業績への影響額	約5億円

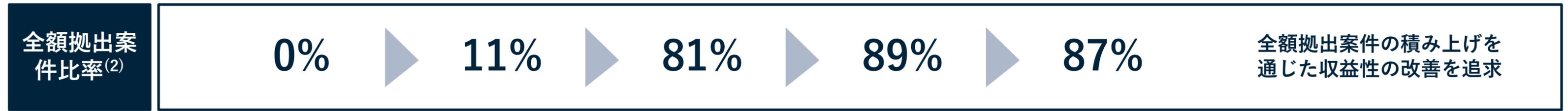
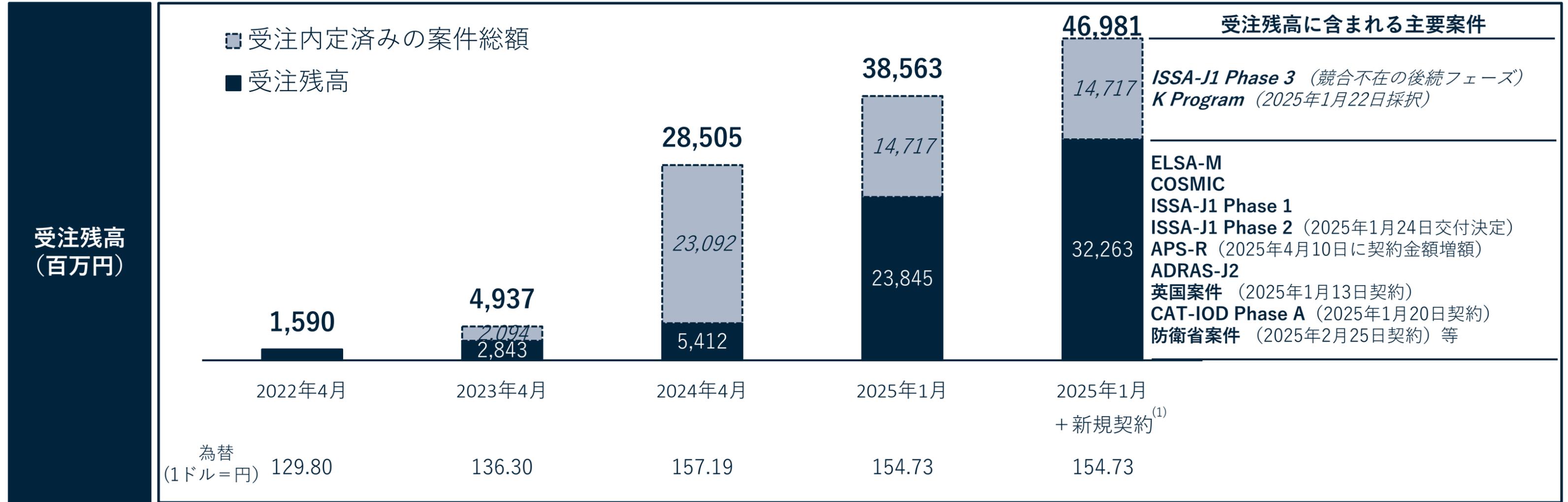
### 今後の見通し

- **ISSA-J1**
  - ミッションスケジュールに重大な遅れは無い。顧客の資金提供タイミングの変更等による一時的な収益遅延が要因。2026年4月期には概ね回復できる見通し。
- **APS-R**
  - ミッションスケジュールに重大な遅延は無い。サプライヤー側の一時的な遅延によるコストおよび収益認識の遅れが要因。2026年4月期には概ね回復できる見通し。



# 受注残高：将来収益の基礎となる受注残高は急速に成長

IPO時に想定していた案件は契約締結が遅れているLEXI-Pを除き全て獲得。当時想定していない防衛案件も複数獲得。収益性が確保できる受注残高を積み上げることにより、今後の当社プロジェクト収益の成長や収益率改善に寄与。



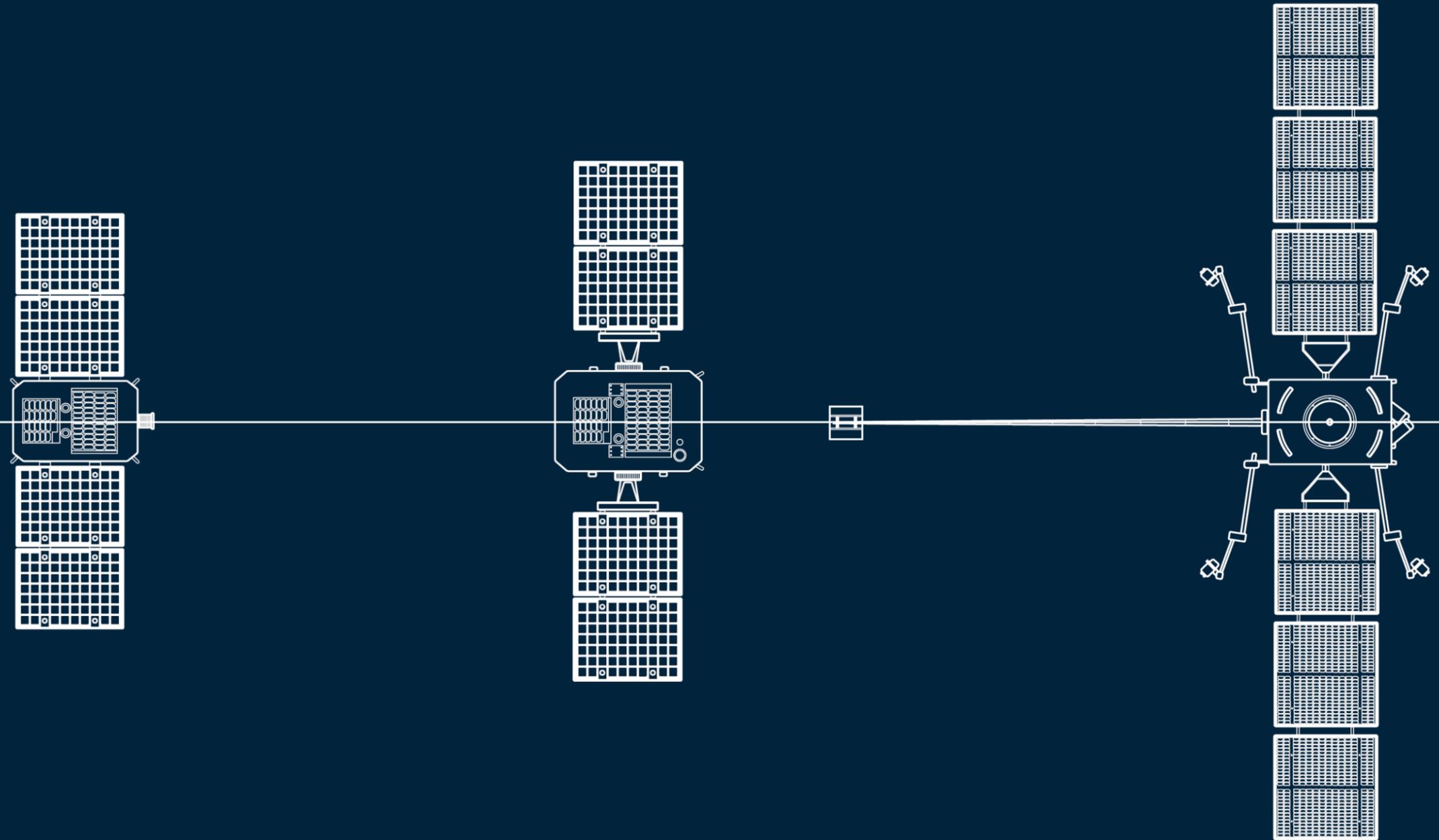
(1) 「2025年1月+新規契約」は、2025年1月時点の受注残高（契約締結済みの受注残高および受注内定済みの案件総額）に、2025年2月以降に契約または受注されたプロジェクトの金額を加えたもので、いずれも2025年1月末時点の為替レートで換算。「2025年1月+新規契約」に含まれる2025年1月時点の受注残高については、それ以降にプロジェクト収益へ転換されることによる減少分は反映されていない。なお、K Programの金額に関して、最大金額は120億円（税込）であるが、10%の消費税が含まれている前提で算出している。

(2) 全額抛出案件は弊社が顧客に提案する範囲の費用を全額顧客に負担いただける案件と定義。比率は案件の金額を基準に計算。



お問合せ先

[ir@astroscale.com](mailto:ir@astroscale.com)



visit us at [www.astroscale.com/ir/jp](http://www.astroscale.com/ir/jp)

Astroscale Proprietary